震災からの復興 真壁の町並み

99棟の登録有形文化財をはじめとする数多くの伝統的な建物が存在する「真壁の町並み」。2011年3月11日の東日本大震災では、歴史的建造物の約9割が被災しました。震災から約4年、伝統的な文化財を守り伝えようと、復興作業が続いています。

真壁のまちの成り立ち

真壁のまちの起源は、平安時代末期から安土桃山時代にこの地を治めた、真壁氏の城下町にあります。

真壁氏は1602年に秋田へ国替えとなり、角館（秋田県仙北市）に配置されました。そして、城主のいない真壁城は、江戸時代に廃城となりました。

その後、真壁のまちには笠間藩の陣屋が置かれ、政治経済文化の中心となりました。

早くから東北地方への木綿販売の中継地点として繁栄し、1700年頃には月12回の定期市が開かれ、在郷町として発展してゆきました。

その頃の町並みは茅葺（かやぶ）きの家屋が主体であったと見られますが、1837年の大火後に防火建築として土蔵造りの建物が普及してゆきました。

真壁の町並みの主な特徴は、約400年前の町割り（道路の位置や幅）が現在に良く残っていることと、見世蔵や土蔵、塗屋、木造店舗、洋風建築、石蔵などの多種多様な建造物が真壁の中心市街地に約300棟も残されていることです。

このような歴史的建造物のうち99棟が国の登録有形文化財になっています。

また、平成22年には桜川市真壁町真壁の一部が全国で87番目の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されました。

これは、真壁の町並みが日本にとって非常に価値のある町並みだと評価されたということです。

東日本大震災の被害状況

東日本大震災では、伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物だけではなく、その周辺の登録有形文化財も甚大な被害を受けました。

被災した物件の割合は、真壁地区の歴史的建造物の約9割にのぼります。

震災前には104棟あった登録有形文化財も震災後には99棟に減ってしまいました。

主な被災内容は、屋根瓦のズレや滑落、大棟の崩落、土壁の亀裂や剥落（はくらく）、建物の傾倒です。

特に歴史的建造物の屋根瓦は葺き土の上に瓦が載せてあるため、年月が経ち土が固くなると地震時に瓦がズレやすくなる傾向があります。

その一方で、日頃から小まめにメンテナンスをしていた歴史的建造物の屋根は、被害を小さく抑えることができました。

復興の歩み

重伝建地区は元々補助制度がありましたが、登録有形文化財には補助制度がなかったため新たに補助できる仕組みをつくり、それらの制度を活用しながら災害復旧事業を進めています。

現在（平成27年1月末）の災害復旧事業の進捗状況については、重伝建地区では平成23年度に4棟、24年度に14棟、25年度に16棟、26年度に11棟、復旧予定96棟中45棟が災害復旧事業を完了しています。

重伝建地区周辺の登録有形文化財は平成24年度に13棟、25年度に11棟、26年度に1棟、復旧予定26棟中25棟が災害復旧事業を完了しています。残り1棟も現在修理中で、26年度末までに完了する見込みとなっています。

重伝建地区の災害復旧は、今後繰り返し行われていくであろう文化財としての修理を考慮して伝統工法での修理を基本とし、周辺の登録有形文化財は外観の早期復旧を目指し、現代工法での修理も可能として災害復旧事業を進めています。

新しい技術を応用した簡易な復旧も必要ですし、本物の伝統工法を継承する本格修理も重要です。時間はかかりますが、補助制度を活用して真壁の本物の文化財を守り伝えようとしています。

■**問合先**／文化財課（☎58－5111・75－3111、内線3222）

旧高久家住宅の復旧

旧高久家住宅（旧高久家）は、正確な建築年代は不明ですが、部材の古さや建築様式から見て明治時代に建築されたと考えられます。

旧高久家もまた東日本大震災で被災した登録有形文化財の一つです。被災後、市に寄付していただき、平成24年度から修理工事を開始し、平成27年1月に竣工（修理完了）しました。

【被災後】
屋根瓦が全体的にズレ、隅棟が崩落し、西面の壁が剥落してしまいました。

【修理中】
地元住民や小山工業高等専門学校生徒の皆さんが、土壁の修理のため、竹小舞掻き（たけこまいかき）（土壁の下地づくり）を行いました。

【完成】
平成27年1月に竣工（修理完了）しました。今後は、地元団体などに施設を貸し出し、地域活性化に役立てていきます。

江戸時代末期の文庫蔵を復元修理

真壁の町並みのなかで洋品店を営む川嶋孟（かわしまはじめ）さんは、震災で江戸時代末期に建てられた文庫蔵（土蔵）が被災しました。

「壁に亀裂が何か所も入り、瓦も少し落ちた」と話す川嶋さん。約3年余をかけて、復元修理が完了しました。

修理中も来訪者をもてなした川嶋さんは、「町並みやこの蔵を活かして、市の観光に役立てていきたい」と今後について話していました。

川嶋孟さんの文庫蔵が元通りに修理されました。